

近隣市等における合計特殊出生率（平成 30 年～令和 4 年）

平成 30 年～令和 4 年における本市の合計特殊出生率は 1.61 で、下表に示す近隣市等における順位としては、大府市（1.71）、知立市（1.64）に次ぐ第 3 位である。

1 平成 30 年～令和 4 年の近隣市等における合計特殊出生率

市町村名（市制施行順）	合計特殊出生率
全 国	1.33
愛知県	1.44
名古屋市	1.33
岡崎市	1.49
碧南市	1.48
刈谷市	1.61
豊田市	1.50
安城市	1.58
西尾市	1.48
大府市	1.71
知立市	1.64
高浜市	1.57
豊明市	1.50
みよし市	1.58
東郷町	1.53
東浦町	1.40

なお、県内においては、清須市（1.78）、大府市（1.71）の順に続き、第 8 位となっている。

2 平成 30 年～令和 4 年の愛知県内における合計特殊出生率（上位 10 自治体）

順位	市町村名	合計特殊出生率
1	清須市	1.78
2	大府市	1.71
3	日進市	1.68
4	知立市	1.64
	長久手市	1.64
6	大口町	1.63
7	東海市	1.62
8	刈谷市	1.61
	北名古屋市	1.61
	幸田町	1.61

【参考】人口動態保健所・市区町村別統計について（下掲の出展より抜粋）

本概況は、令和2年を中心とした平成30年～令和4年の人口動態統計（確定数）の生数及び死亡数、並びに令和2年国勢調査による日本人人口（確定数）を基に、出生に関する指標である合計特殊出生率と、死亡に関する指標である標準化死亡比について市区町村別に作成したものである。

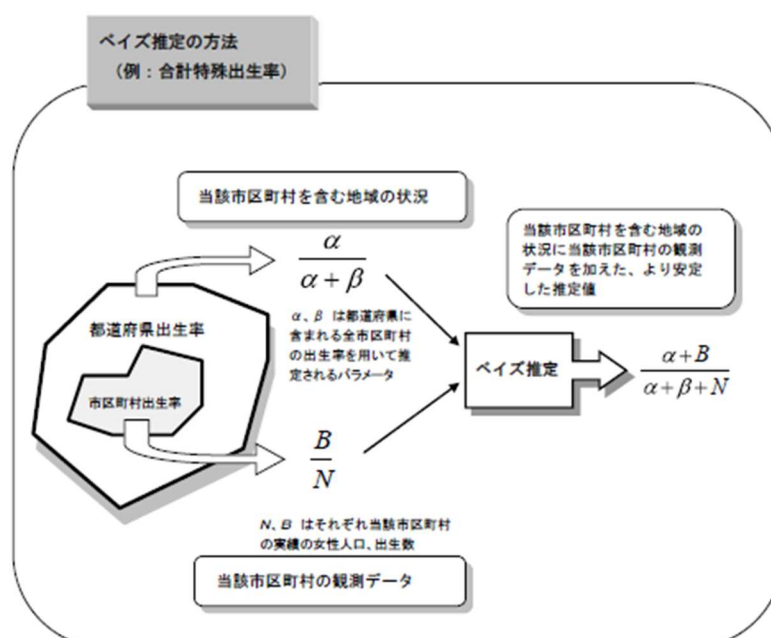
なお、市区町村別の合計特殊出生率及び標準化死亡比は、人口規模の小さい地域では、出生数や死亡数の少なさに起因して数値が不安定となるため、小地域の指標の推定に有力なベイズ推定※を用いて推定している。

※ ベイズ推定

小地域における合計特殊出生率や標準化死亡比をみる場合、観測データ（出生数や死亡数）が少ない場合には、数値が大幅に上下するために、不安定な動きをすることがあり、その地域の出生、死亡の動向を把握することが一般に困難である。

このような場合、観測データ以外にも対象に関する情報を反映させることが可能なベイズ推定が、合計特殊出生率、標準化死亡比の推定にあたっての有力な手法となる。具体的には、当該市区町村を含むより広い地域である都道府県の出生、死亡の状況を情報として活用し、これと各市区町村固有の出生数、死亡数等の観測データを総合して当該市区町村の合計特殊出生率、標準化死亡比を推定するという形でベイズ推定を適用し、数値を算出した。

このように、ベイズ推定の手法を適用することにより、小地域に特有のデータの不安定性を緩和し、安定的な推定を行うことが可能となる。



出典：平成30年～令和4年 人口動態保健所・市区町村別統計の概況（人口動態統計特殊報告）
（厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室）

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/other/hoken24/dl/gaikyou.pdf>